

今回の体験学習では、放射線に関する入門の講義を受けた後、玄海原子力発電所並びに関連の施設を見学させていただきました。放射線や原子力発電所については、これまで学ぶことが無く知らないことばかりだったので、講義を受けたり、実際に原子力発電所を見学したりしたことで、たくさんのことを学ぶことができました。とくに興味深かったのは、玄海原子力発電所で採用されている加圧水型の原子炉の中に収納されている制御棒や燃料集合体の模型でした。短い経験ではありましたが、放射線や原発に対してこれまでとは違う見方ができるようになったと思います。今回の体験学習で得た知識をこれからの学習に生かしていきたいと思っています。

(M.K.)

今回の体験学習で一番に学んだことは、放射線に関して、正しい知識を持つことがいかに大切であるか、ということである。報道される福島第一原発事故関連のニュースは日々変わり、何が真実なのか、容易にはわからないという状況が続いている。福島県内の原子力発電所近隣の人々は、報道されている空間線量等の値に日々恐怖を感じながら生活している。しかし、実際、福島県で観測されている放射線量は確かに通常よりも高い値とはいえ、すぐには人体に影響がないレベルだと学んだ。数値ばかりが一人歩きをした結果、人々は恐怖に駆られているのだと感じた。放射能汚染除去の早急な対策が必要な一方、放射線に関してもう少し理解を深めることで、人々の不安は低減するのだと思う。今回施設見学をした九州電力の玄海原子力発電所では、福島第一原発での事故を受けて、電源の確保や冷却水の確保等の様々な追加対策を講じており、電力会社なりに安全と信頼を得るための努力をしていることを学んだ。「放射線を正しく理解して正しく怖がる。」續教授がおっしゃったこの言葉が強く印象に残っている。(A.Y.)